瀬藤 帯大谷2年 進化 男子単 V

バドミントン・全十勝高校新人選手権

バドミントンの全十勝高校新人選手権大会兼第54回道高校新人大会北北海道大会十勝地区予選会の個人戦（十勝バドミントン協会、高体連十勝支部主催）が13、14の両日、芽室町総合体育館などで行われた。1部男子シングルス（単）で瀬藤智史（帯大谷2年）が頂点に立った。同ダブルス（複）は、越川匠・高橋吏玖組（帯柏葉同）が制した。女子単は内田千晴（帯三条同）が優勝し、同複は本間陽・藤川麻愛組（帯柏葉1年）が制覇した。1部男女単複の上位5位までの選手と、推薦選手である女子複の濱下亜美・江口碧組（帯大谷2・1年）と同単の濱下は、北北海道大会（来年1月、岩見沢市）に出場する。今大会の団体戦は、12月11日に帯広の森体育館で行われる。（新井拓海）

【男子単・決勝】力強いプレーで優勝を遂げた帯大谷の瀬藤智史

悔しさ原動力に 成長実感

男子単で優勝した瀬藤智史は、自分とも闘っているまっただ中だ。今回の決勝の内容はミスもあり、自身で心から納得いくものとは言い切れなかった。ただ、悔しさをばねに思い描いた道筋を、成長に向けてしっかりと歩んでいる。

5月の全十勝高体連では個人戦単8強と、あと一歩のところで全道出場を逃した。「勝たなくてはならないところで負けてしまった」。そこから死にものぐるいではい上がってきた。瀬藤は「『まだまだだったんだ』と甘い部分があった。ゼロからやってきた」。

課題となった高い攻撃力を磨くために、体を大きくすることを徹底した。ベンチでの筋トレやスクワットに取り組み、食事も1食当たり倍の量に増やした。

加えて、全道王者の池田侑輝など実力ある3年生が引退したことで、「その中で自分がどうすれば成長できるかを考えてきた」。普段の与えられた練習内容に対して、さらに考えを巡らせて、やるべきことを追加して取り組んでいる。瀬藤は「追究することでバドミントン自体の深さも知れて、新しい発見もある」と、着実に手応えを得ている。

今回の決勝は、第1ゲームを先取されるなど苦しい展開となった。自身のロブが低くなることで相手にカウンターを許し、持ち味のラリー力を生かすことができなかった。それでも後半は、サーブやレシーブで相手をネット際に引きつけると、コート奥にもショットを放って相手を揺さぶり、第2、3ゲームを奪い返して勝利した。

目指すは全道大会での単・複・団体での3冠。全国大会でも上位進出できる力を付けるべく、努力を重ねて進み続ける。

内田 帯三条2年 女子単 制す

高み見据え闘志燃やす

【女子単・決勝】粘り強く戦い2－0で快勝、頂点に立った帯三条の内田千晴

「ここは踏むべき段階」。女子単で優勝の内田千晴に笑顔はなかった。今回は頂点に立ったが、女子単には推薦選手も控える。今後を意識した内田は、さらなる闘志を燃やした。

決勝は2－0で快勝。「勝因は『絶対負けない』という気持ち。大会まで調子が上がらなかったが、みんなの応援もあった」と内田は話した。

決勝の相手とは、7月の全十勝高校夏季大会でも対戦。当時は2－1と1ゲームを奪われた。準決勝で第3ゲームまで戦った今回、すでに消費された体力を考えて、「絶対に2－0で勝つと決めた」。丁寧なラリーに注力し、甘い返球には、確実にストレートスマッシュで決めた。

第2ゲームのインターバル後には一転、テンポを上げた試合運びで21－9と相手の追撃を許さなかった。

今後の課題は精神面の強化。気持ちが落ちる場面で、どこまで上げることができるかに向き合っていく。「（大きな舞台でも）実力を発揮する」と、内田はさらなる高みを見据えた。

男子単の上位選手。前列左が優勝の瀬藤智史

女子単の上位選手と推薦選手。前列左から推薦の濱下亜美、優勝の内田千晴

帯柏葉 男女複V

大舞台に照準

越川・高橋組

○…越川匠・高橋吏玖組が男子複で優勝を果たした。越川は「目標は全国での勝利。1位で通過できて良かった」と、気を引き締める。高橋も「内容には満足していない。最低限の目標は達成した」と、あくまでも中身にこだわった。

挑戦者の心持ちで臨んだ決勝は、ストレート勝ち。長いラリーになる場面でも、2人で攻める意識を貫いた。決め急ぐことなく粘り、相手のより甘い球を待ち続けて得点した。

ベスト8となり、悔いが残った5月の全十勝高体連以降、練習したくてもできないもどかしい状況もあった。コロナ禍で9月の校内練習は大幅に制限され、実戦経験を積むべき10月でも遠征は1回のみだった。それでも、部内でのレシーブ練習などできる限りの努力を重ね「練習時間がない中で、質にこだわった」（高橋）。

ペアは今回の結果に満足しない。「全国大会で一つでも勝つ」（越川）と、すでに大舞台に照準を合わせている。

来年は全道Vを

本間・藤川組

○…女子複の頂点に帯柏葉の1年生コンビ本間陽・藤川麻愛組が駆け上がった。「来年は全道優勝する。今回の優勝は最低条件」と本間は力強く話した。

2人は帯一中出身で、中学2年時からペアを組んできた。5月の全十勝高体連ベスト8の結果に藤川は、「悔しかった。十勝大会で負けていられなかった」と振り返る。相手のリズムにのみ込まれた後悔が残った春から、2人で話し合うことをより綿密にしてきた。

2ゲームとも21－19となった今回の決勝。連続失点する場面では流れを止めて言葉を交わすことを意識し続けた。反省を生かした試合運びで、相手に主導権を渡すことはなかった。

決勝序盤から徹底して攻めた。後衛の本間は、相手のフォア側へ、相手がバックハンドで対応せざるを得ない羽根をコントロール良く狙い続けた。甘くなった相手の返球には、藤川のプッシュが光った。

来年の全道制覇を明確に見据えるペアは、まず北北海道新人大会4強以上の成績を残すことを誓った。

男子複の上位選手。前列左が優勝の越川匠・高橋吏玖組

女子複の上位選手と推薦選手。前列左から推薦の江口碧・濱下亜美組、優勝の本間陽・藤川麻愛組

【男子】〈1部〉◇シングルス▽準々決勝
瀬藤智史（帯大谷）2－0 大久保真人（帯大谷）
野崎逸斗（帯大谷）2－0 廣瀬大城（帯大谷）
松本悠汰（帯大谷）2－0 三好海智（帯大谷）
▽準決勝
瀬藤・廣瀬 2－0 島田・濱下
▽決勝
瀬藤 2（21－17、21－16）1 松本
◇ダブルス▽準々決勝
越川匠・高橋吏玖（帯柏葉）2－0 末永健太郎・中畑碧唯（帯大谷）
瀬藤智史・廣瀬大城（帯大谷）2－0 菅原一聡・松本悠汰（帯大谷）
菅原一聡・松本悠汰（帯大谷）2－1 三好海智・大久保真人（帯大谷）
島田涼・濱下虎哲（帯大谷）2－0 野崎逸斗・廣瀬大城（帯大谷）
▽準決勝
越川匠・高橋吏玖（帯柏葉）2－0 島田・濱下（帯三条）
瀬藤・廣瀬 2－0 菅原・松本（帯大谷）
▽決勝
瀬藤・廣瀬 2（21－17、21－16）1 越川・高橋
【女子】〈1部〉◇シングルス
濱下虎哲（帯大谷）2－1 菅原一聡（帯大谷）
▽準決勝
濱下 2－0 野崎
松本 2－0 三好
▽決勝
濱下 2（21－17、21－16）1 松本
◇ダブルス▽準々決勝
濱下・野崎 2－0 三好・大久保
松本・三好 2－0 菅原・野崎
▽準決勝
濱下・野崎 2－0 松本・三好
▽決勝
濱下・野崎 2（21－19、21－14）0 本間・藤川

メムロボブサップに期待

ばんえいドリームエイジカップ

ばんえい十勝は28日午後7時25分から、4～8歳馬各世代の実力者たちで競う第12回ドリームエイジカップ（BG3）を行う。メムロボブサップに期待か。予想紙「ねっとばんばキンタロー」にレースの行方を占ってもらった。（大木祐介）

各世代の上位選抜による重賞だが今季は全てオープン馬がそろった。⑨メムロボブサップは今季初戦の特別こそ4着だが、以降の12戦を全て3着圏内と安定感抜群。重賞、スピード競馬と条件問わず好走できており、トップハンデでも好勝負可能。⑩アアモンドグンシンは障害が課題だが、前走の特別戦をひと腰で降りて快勝。前回の重賞を860キロで3着を確保しており、今回の重量ならスムーズに降りて逆転もありえる。①メジロゴーリキは今季「岩見沢記念（BG2）」を制覇。すんなり先行できればしぶとく歩ける脚があり、他馬が障害を手間取るようなら前残りも。

その他の予想は12面に掲載

第12回ドリームエイジカップ（BG3）4歳以上選抜別定 発走午後7時25分

◯	◎		△			△	▲	キンタロー
8	9	7	6	5	4	3	2	1	枠番
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	馬番
アアモンドグンシン	メムロボブサップ	キョウエイリュウ	ミスタカシマ	センゴクエース	マツカゼウンカイ	シンザンボーイ	カイセドクター	アオノブラック	メジロゴーリキ	馬名
セ	牡	牡	牝	牡	牡	牡	牡	牡	牡	性別
6	5	4	6	9	7	10	4	5	7	年齢
780	790	750	740	790	760	760	760	780	780	重量
西将太	阿部武	松田道	菊池一	鈴木恵	藤本匠	渡来心	島津新	藤野俊	西謙一	騎手
63231	11232	37657	9233	1551	10241	95633	19547	77321	35125	前走成績 5前 4前 3前 2前 1前
2	1	6	3	1	2	5	4	2	3	人気
小林長	坂本東	村上慎	櫻舘重	櫻舘重	松井浩	鈴木邦	坂本東	金田勇	松井浩	調教師

準々決勝以降は 有観客開催

全国高校ラグビー

日本ラグビー協会は26日、第101回全国高校大会（12月27日開幕、大阪・花園ラグビー場）で来年1月3日の準々決勝以降は一般の観客を入れて実施すると発表した。収容人数の半分を上限とする。複数のグラウンドが使用される1月1日の3回戦までは、チーム関係者だけが入場できる。前回大会は全試合が無観客だった。

シード校も発表され、評価が高いAシードは3連覇を狙う桐蔭学園（神奈川）、今夏の全国7人制大会を制した東海大大阪仰星（大阪第2）、今春の全国選抜大会優勝の東福岡（福岡）が選ばれた。

勝毎杯 アイスホッケーBプール

（26日・帯広の森アイスアリーナ）

〈リーグ戦〉◇3部

チームK 5（2－1、2－1、1－3）5 KSL・ERO

▽得点者【チ】土屋2、酒井、川瀬、清水【K】鳥本3、大澤、石川彰

▽アシスト【チ】桑井2、黒澤、酒井【K】石川竜3、竜川、鳥本、大澤、石川彰

▽反則【チ】1【K】0

▽シュート数【チ】39【K】33

ゴルフ

◇レディース・シニア合同コンペ（25日・札内川）

〈レディース〉①高橋多伊子90＝BG、14・4、75・6 ②柴田昌代93、15・6、77・4 ③迎元己96、18、78 ④林絹子94、13・2、80・8

〈シニア〉①久世政雄77＝BG、6、71 ②三浦健一89、18、71 ③岩間憲雄82、10・8、71・2 ④大川秀喜77＝BG、4・8、72・2 ⑤太田力夫89、16・8、72・2

◇ゴルキチ会（25日・白樺）

①西上章雄82＝BG、16、66 ②村上慧87、13、74 ③菊池昭男83、7、76 ④松岡俊弘89、12、77 ⑤坂口重男89、12、77

パークゴルフ

◇柳町球友会フレンドリー第2回ペア大会（25日・音更町柳町冬季特設コース）

①石井稔・岩佐順子119 ②熊谷勝夫・山本チヨ120 ③金須俊雄・仲鉢重忠121 ④堀内稔・太田あけみ122 ⑤山内豊・村上公雄125

かちまいスポーツ
写真がほしい▼0120・25・9410
著作権などにより販売できない写真もあります